

都市型里山の景観注視特性の把握

菊池 佐智子¹, 李 赫宰¹, 松下 由佳², 井上 堯², 奥水 肇²

¹ 明治大学 研究・知財戦略機構, ² 明治大学 農学部

連絡先: <kikuti@isc.meiji.ac.jp> Web: <http://www.isc.meiji.ac.jp/~lle/>

- (1) **目的:** 大規模な住宅地開発が進められた多摩丘陵において、雑木林、谷津田、畑、集落が一体となった里山景観を残す神奈川県川崎市麻生区の黒川上地区とその周辺(黒川地域)を対象に、景観写真を撮影し、撮影位置とその方向(方角)を地形図と GPS で取得し、GIS による景観注視特性の分析を試みた。
- (2) **方法:** 景観写真は、2007 年 7 月 28 日に、明治大学の学生 15 名が撮影した。撮影ルートは、雑木林と畑を中心とした丘陵グループと、谷津田と集落を中心とした谷グループとした。参加者には、レンズ付きフィルム(27 枚撮り)とルートを示した地形図、グループごとに GPS 端末(I-O データ社製 CFGPS2)と ArcPad 7.0(ESRI 社製)を内蔵した PDA を準備した。
- (3) **意義:** 黒川地域は、自然と人工が混在する都市型里山の事例である。大規模開発により改変され、小さな谷と複雑な斜面を有する都市型里山の自然環境パターンとその特性の把握には、微地形単位と植生単位の組み合わせが有効である。この微地形単位と植生単位の表現手法に、景観写真を加えた本調査は、都市型里山の総合的な評価を可能にし、現在の都市型里山の抱える問題の解決に一定の示唆を与えるものである。
- (4) **特徴:**
- ・ 里山景観の撮影の際には、1) 客観的な写真、
 - 2) 理解可能な写真、3) 空間を表現する写真、
 - 4) 全体を表現する写真、5) 撮影枚数は制限しない、という要点を伝え、配布されたレンズ付きフィルムを使い切らせた。
 - ・ 配布した地形図には、撮影方向を矢印で記入させ、各グループに準備した ArcPad 7.0 には、撮影者と撮影番号、および GPS で捕捉した緯度経度を属性情報とするポイントフィーチャーを格納した。
- (5) **結果**
- ・ 撮影位置と撮影された景観写真の構成要素に着目したところ、「水田」「丘陵」「農道」「雑木林」という黒川地域の特徴となる里山景観の特性が抽出できた。
 - ・ 撮影された 257 枚の景観写真は、水田 104 枚、丘陵 71 枚、農道 57 枚、雑木林 25 枚に分類することができた。
 - ・ 好ましい里山景観とその注視特性の関係性の分析から、黒川地域の景観特性を明らかにした。
 - ・ 微地形単位と、植生単位との対応関係に着目した空間情報との関連性を分析した。また、黒川地域の周辺に居住もしくは通勤通学し、黒川地域と何らかの関係を持つ都市住民が地域資産として共有できる都市型里山の空間的景観的特徴の把握を進めた。

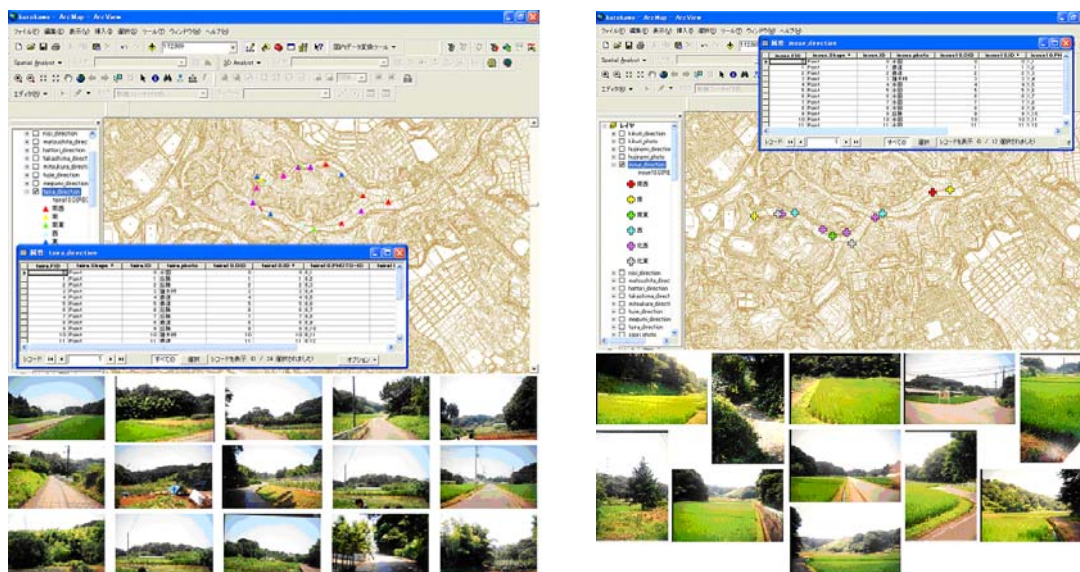


図 1: 撮影位置と景観写真(左:丘陵グループ, 右:谷グループ)

景観写真の撮影方向は、キーボードのテンキーと対応させた。里山景観を「水田」「丘陵」「農道」「雑木林」の 4 つに分類し、ポイントフィーチャーの属性情報として格納した。掲載した地図と景観写真(一部)から、撮影者とそのルートが異なるにもかかわらず、撮影された景観写真には何らかの共通した特徴があることが判明した。